

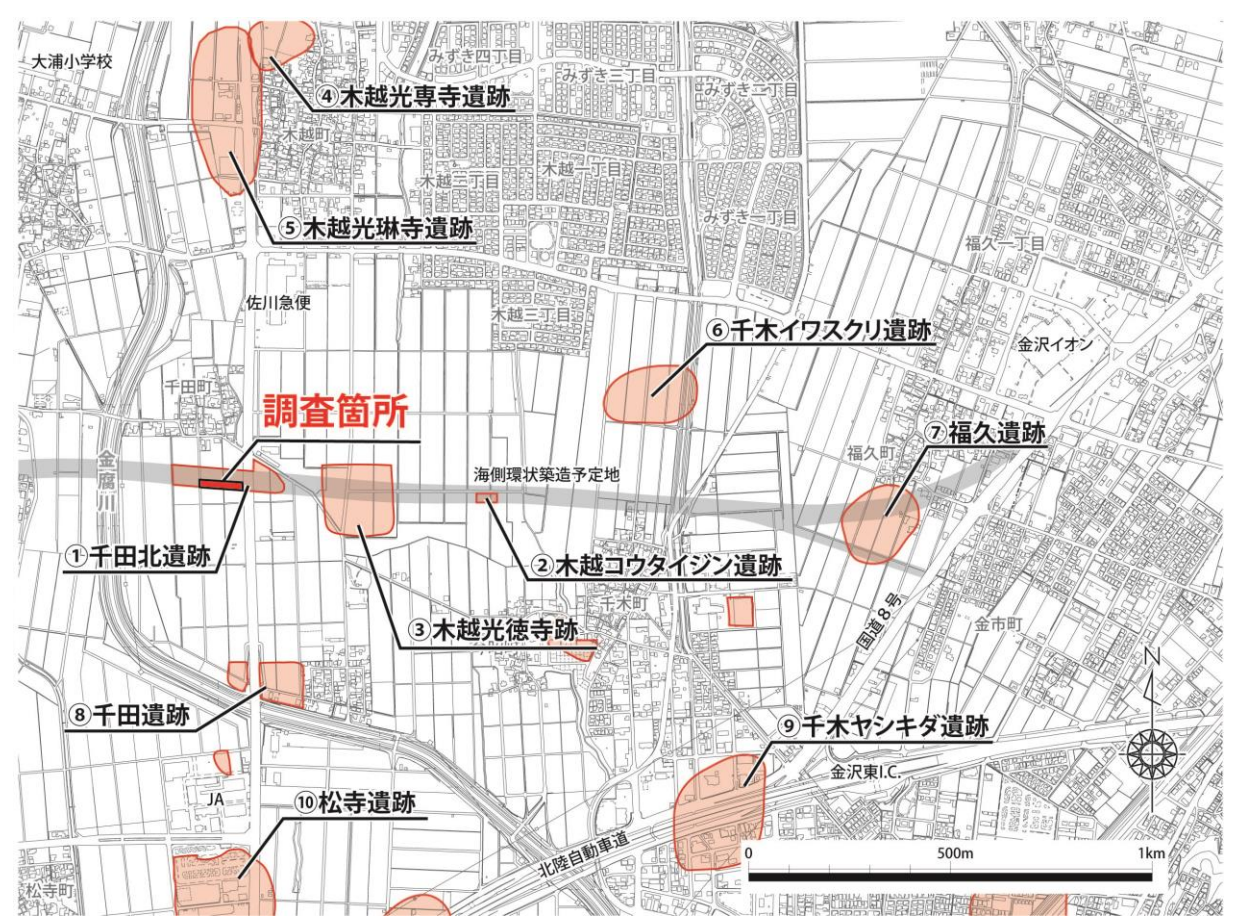
# 千田北遺跡現地説明会 資料

平成 30 年 8 月 26 日（日） 金沢市埋蔵文化財センター

## 1. 調査概要

調査原因	都市計画道路（金沢外環状道路）木越福増線築造工事
調査期間	平成 30 年 4 月 13 日～平成 30 年 9 月(予定)
調 査 地	金沢市千田町地内
調査面積	約 4,300 m <sup>2</sup>

## 2. 周辺の遺跡



番号	遺跡の名称・時代	主な遺構・遺物	番号	遺跡の名称・時代	主な遺構・遺物
①	千田北遺跡（弥生～中世）	掘立柱建物、井戸、溝、堀、墓土器、陶磁器、木製品、金属製品	⑥	千木イワスクリ遺跡（古墳～平安）	掘立柱建物、溝、土坑土師器、須恵器、竈串
②	木越コウタイジン遺跡（古代～室町）	掘立柱建物、溝、柵列須恵器、珠洲焼、灰釉陶器、壁材	⑦	福久遺跡（古墳～古代）	掘立柱建物、溝弥生土器、土師器、須恵器
③	木越光徳寺跡（古代～室町）	掘立柱建物、区画溝、土坑、井戸土師器、須恵器、珠洲焼、陶磁器	⑧	千田遺跡（弥生中期～古墳中期）	竪穴系建物、周溝墓弥生土器、土師器、管玉
④	木越光専寺遺跡（室町）	（未調査）	⑨	千木ヤシキダ遺跡（飛鳥～古代）	掘立柱建物、埋納遺構施釉陶磁器、墨書土器、古銭
⑤	木越光琳寺遺跡（中世～近世）	掘立柱建物、溝、土坑土師質土器、陶磁器、珠洲焼	⑩	松寺遺跡（弥生末～古墳前期）	円形竪穴建物、周溝墓、掘立柱建物弥生土器、土師器

千田北遺跡と周辺の遺跡

## 3. 鎌倉時代の曲物棺墓（ST01）について

曲物を用いた棺に、座った体勢で土葬されています。曲物の底板を転用して蓋板とし、その上に折敷を敷いて、食器を並べて葬送儀礼を行っています。この墓がつくられた鎌倉時代は、身体が伸びた状態で埋葬する伸展葬が主流で、座らせた体勢で埋葬する座棺は、桶（棺桶）が普及する 15 世紀以降に主体となります。

## 4. 鎌倉時代の宗教関連遺物について

（1）木造僧形神立像：頭部は円頂で、腕を拱手する（胸の前で腕を組む）などの造形的特徴から僧形の神像である可能性が高いと考えられます。面は目、鼻、口、耳が表現されています。襟が大きく開いた垂領の衣をまとい、両手は拱手し胸前にあります。右袖で左袖を覆っています。像底に木釘の痕跡があることから、台座の存在が推定されます。

木造神像の出土事例は、4 例を確認していますが、僧形神像としては初めての事例となります。

（2）笠塔婆等の部材：笠塔婆や厨子、灯籠などの笠や屋根に取り付く蕨手相当木製品は、笠等に取り付けるための加工及び風鐸形木製品を取り付けた金具の痕跡が認められます。

風鐸形木製品は、金属製品の模倣品で、表面の風化が激しい大型の製品と、表面の残り具合が良い小型の製品が出土しています。大型のものには吊り下げのためと考えられる金属の輪が残っているものがあります。また小型のものは、金属製品に忠実に模倣されています。

風招形木製品は風鐸の下部に吊り下げられるもので、大型の風鐸形木製品に吊り下げられたものと考えられます。

（3）こけら経・卒塔婆：こけら経は、中世には造塔の功德と写経の功德をあわせもつものとして、自他の作善・追善に好んで用いられました。文字が判読できるものについては、妙法蓮華経が墨書きされています。

卒塔婆は、主に追善供養に用いられたとされています。池状の穴の底に先端が焦げた板が複数枚突き刺さった状態で出土していますが、卒塔婆が突き刺してあった可能性が考えられます。

## 5. 千田北遺跡の発掘調査でわかってきたこと

掘で区画された南側の空間が、墓地（一族の墓）もしくは宗教的な空間として位置づけられていた可能性が高いといえます。僧形神立像と考えられる木像は、仏教的な色彩の強い空間に祀られていたと推定できますが、木像制作者が神像として制作したものを、それを祀った千田北遺跡の居住者は、地蔵菩薩などの仏像として祀っていた可能性も考えられます。その実態を明らかにすることは今後の課題ですが、笠塔婆・厨子・灯籠などの宗教的小型建造物や卒塔婆、こけら経を用いた宗教行為が執り行われた仏教的空間で、神像を祀るという行為は、当時の神仏習合を考える上で貴重な事例であると考えられます。



曲物棺墓ST01



棺蓋(底板を転用)の上に折敷と土師器皿と漆器碗を配置し葬送儀礼を実施。  
遺体の膨張によって、曲物が広がり、蓋板が落ちた状況か。

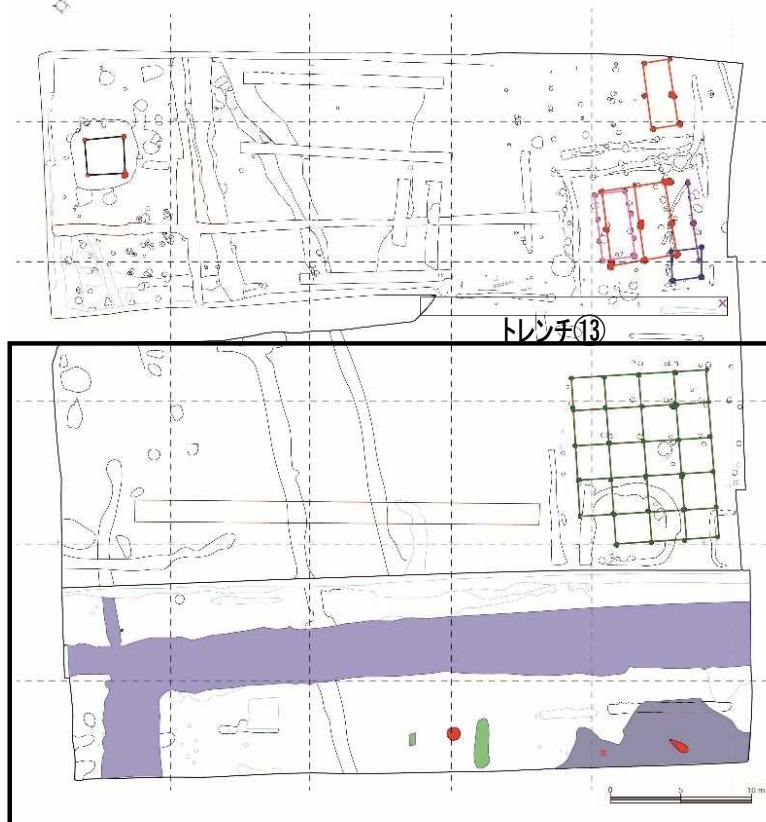


底には薄い板を敷いてある。  
曲物下端には底板を止めていた木釘が残存するが、底板は確認できず、蓋板(径約54cm)として転用した可能性が考えられる。

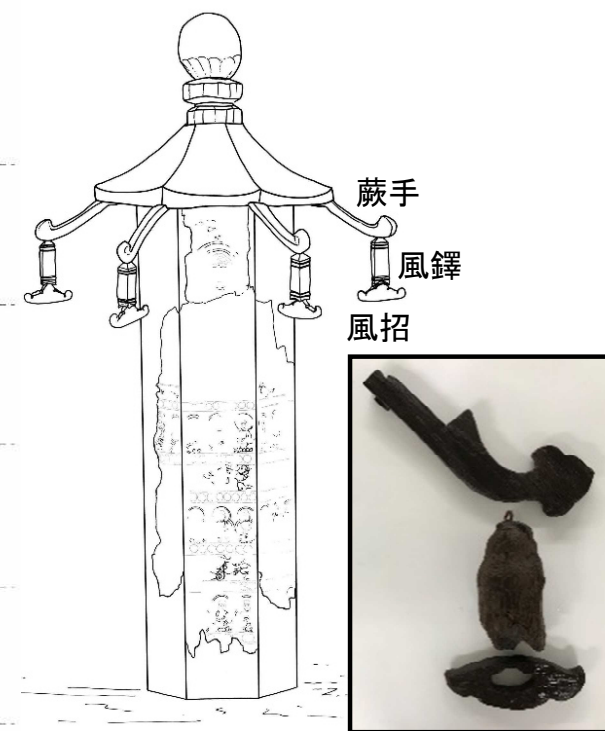
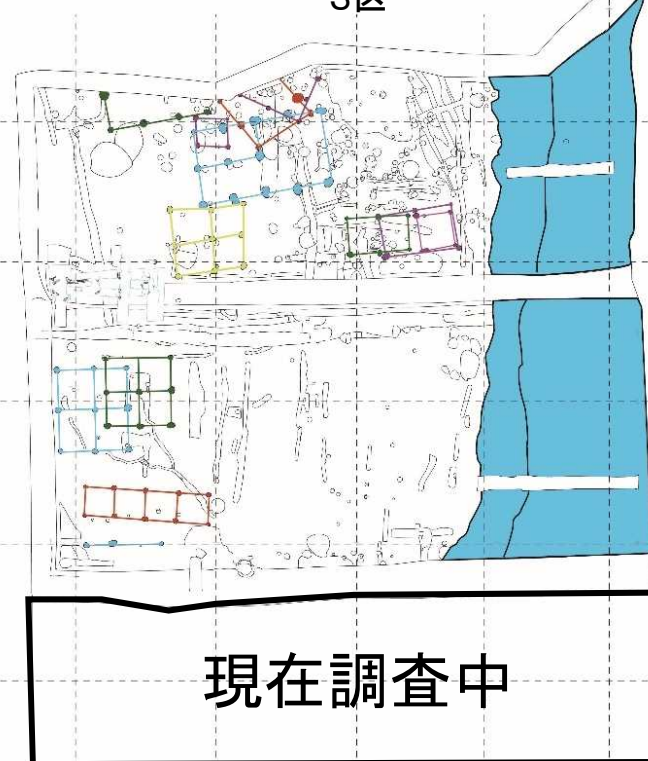


卒塔婆出土状況、SD35出土  
2枚重なった状態で出土した

4区



3区

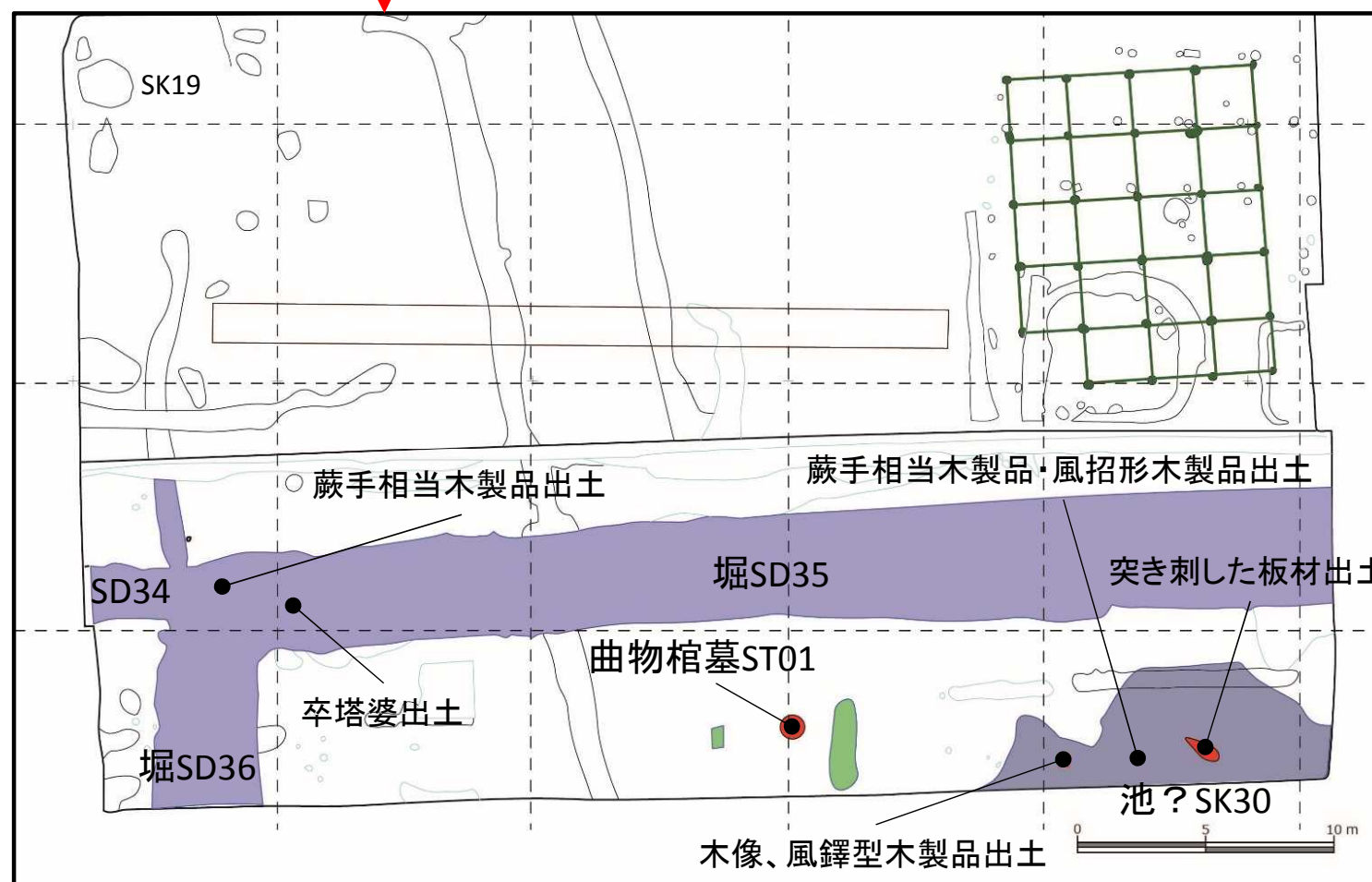


長野県社宮司遺跡  
六角木槨復元図  
長野県埋蔵文化財センター 2006  
『社宮寺遺跡ほか(第2分冊)』より転載

千田北遺跡  
の部材



出土したこけら経  
中・右は赤外線画像



池? 底に突き刺した板状木製品  
先端部は、どれも同じ高さで焦げている  
隣接する倒れたものも同様に、規格から卒塔婆の残欠と推察される



僧形神立像 出土状況